

聞き書き
船原英照さん

シーカヤックで上天草の無人島を巡る旅は 日々の疲れを解放する至福の「天草時間」



自転車旅で天草の海の透明度に魅せられる

天草との出会いは中学2年のときです。今から40年ぐらい前ですかね。

その頃、大学生の間で自転車旅をするのが流行ってたんですね。自転車で北海道を旅するのを雑誌で見たりして、大学生にできるんだつたら中学2年でもできるんじやないかと思つて友だち3人で自転車旅を計画したんです。

で、「どこ行こうってときに『天草いいんじやないの?』というようなことになつたんです。御船町の友だちの家から出発して1週間ずっとキャンプしながら回りましたね。

天草って海水浴とか小さい頃からよく大人に連れてついてもらつたんですけど、車だと

ピュッと行つてしまふ。でも、自転車つて時速10キロとか20キロぐらいだから、今まで見慣れた風景が全然違うものに見えて。通りの家の裏の庭が超素敵だなとか、風景すべてに感動が詰まつて、いちいち止まつては「あれすぐえ、これすぐえ」と言ひながら回つていきました。

天草の西海岸に東シナ海が広がるすごいきれいな場所があるので、そこに行つたから、もう海がとにかく澄んでいて。特に日本初の海中公園になつた牛深は見たことないよ。うな透明度の高さで、ちょっと泳いでみたら熱帯魚とともに「こんなところが天草にあるのか」と。天草のイメージが覆つたというか。キャンプも楽しくて、天草の魅力がもうめちゃめちゃそこで自分の中に入っちゃつたね。「大人になつたらこういうとこに住めた

ら幸せだよね」と思つていました。

でも、大人になるとそういうのつて少しずつ忘れちゃうじゃないですか。学校出て、就職をして最初熊本市内の印刷会社に営業マンとして入つて。結構優秀だったんです。27歳ぐらいまでいたのかな。

あるとき、営業で毎日行つていた大きな会社の企画部の人が「俺カヌーが趣味なんだよ。お前も遊びにいく?」って誘つてくれたんですよ。カヌーに全然興味もなかつたんですけど、「行つたらもっと仕事がもらいややすくなるかな」という厭らしい気持ちで行つたんですよ。

最初は緑川だったと思うんですけど、次のお金休みかなにかには「四万十川でキャンプしながら川を旅する」と言われて、「そいいや俺もそんなことを中学生の頃やつたな」と思い出して、ついてついたんですよ。

そうしたら四万十川の自然の中でカヌーで遊ぶ素晴らしさ、心を解き放ってくれる瞬間に出会つてしまつて。上流から下流の海沿いのほうまで2泊3日ぐらいで下つて、すぐに自分のカヌーを買いにいきました。それからは誘つてくれた人はそつちのけで、競技のカヌーとかにもハマつたりし、週末になればカヌー。

金曜日の営業に出かけるじゃないですか。

営業車の上にもうカヌーが乗つてるんですけど（笑）。それで営業に回つて仕事が終わるとそのまま球磨川行って、月曜日の朝まで川にて、早朝4時、5時に起きて家に帰つてシャワー浴びて、スーツに着替えて出社してまし

たね。それを毎週毎週繰り返していたんですね。

もうそれを楽しむために仕事頑張るみたいになつてたんですけど、35歳のときに「いや、これを楽しむために仕事頑張るんじやなくて、これで生きていつたほうが幸せが倍増するな」と思つて、生き方変えるなら今しかないと、会社をばつと辞めたんです。

それからフィールド調査したり、ガイド講習を受けたりとかを1年ぐらいやって、2003年の8月に「unplugged」を創立しました。陸地からではアクセスできない秘密のポイントにシーカヤックで行ってシユノケリングするというツアーを牛深で始めたんです。

たとえば沖縄であれば、遠浅のどこまでも



広大な天草には異なる顔をもつさまざまなフィールドがあります。その一つが有明海の穏やかな海。小島が点在する天草松島は、シーカヤックで巡つてこそわかる魅力があります。波のない海にぽっかり浮かぶ貝殻できた島、カヌーから見上げるそり立つ岩。ダイナミックで優しい至福の“天草時間”ともいえる、そんな旅を船原さんは演出し、ガイドしています。移住という形で辿り着いた上天草の海を船原さんは温かな眼差しで見つめます。

ふなはら・えいしょう／シーカヤックのツアーワーク「unplugged」オーナー。1967年熊本市生まれ。カヌーでの川下りを趣味としていたが、激流で腕を痛めたのを機にシーカヤックに転向。2003年に会社を立ち上げ、牛深（うしづか）でシーカヤックとシュノーケリングを併せたツアーを始める。2012年、上天草市に移住し、前島を拠点に天草松島の島々を巡るツアーを開始。天草の魅力を詰め込んだツアーは人気で、遊びを通した自然からの学びを人々にもたらしている。



小島が点在する水辺は波も穏やかで湖のようだ。

今、SDGsもやっぱり広げていかないと
いけないと思っていて、そういうったことの気
付きを与える仕事だと思っています。そ
れも堅苦しくではなくて、「ゴミ拾いつてめつ
ちや楽しい」みたいな。

ツアーでは毎回、無理しない範囲で必ずゴ
ミを持つて帰ってきます。海に漂っているビ
ニール袋だったり、ペットボトルだったりを
みんなで拾う。

ゴミは都会のゴミですね。海にわざわざ捨
てにくる人なんかいないわけですから。有明
海は熊本県、福岡県、佐賀県、長崎県のゴミ
がほとんどで、雨が降ると都会から側溝を通
じて川に入つてゴミが全部海に流れてくるつ
ていうサイクルなので、都会に人が多ければ

天草松島と天草五橋

上天草市の大矢野島と天草上島（かみしま）の間にある大小20ほどの島々は天草松島と呼ばれ、宮城県の松島、長崎県の九十九島（くじゅうくしま）と並ぶ日本三大松島の一つ。雲仙天草国立公園内に位置する。島々により水路が狹まるため、干満差日本一の有明海の中でも特に上下差が大きく、高潮時にはその差は6メートルにも及ぶ。天草五橋は、宇土（うつ）半島の三角から大天野島、永浦島、大池島・池島、unpu-ugedのある前島、天草上島を結ぶ5つの橋で1966年に開通。当時の日本の橋梁技術を集結し、完成までに4年2ヶ月を費やした。天草の島々を巡る五橋の開通は大きな話題となり、観光客が激増。天草の交通、産業、生活は一変した。五橋はトラス橋、PCラーメン橋、パイプアーチ橋などそれそれ構造が異なり、自然と人工物が一体となった風景となっている。シーカヤックからはそうした橋梁美や構造の迫力を間近に見ることができる。橋から眺める夕日は「日本の夕陽百選」にも選ばれている。

この循環って結局しつこ返しが来る。自然
はバランスどるんで大雨に繋がっちゃう。ゴミ
予備軍がくすぶつてゐる状態なので、今度の
大雨が降つたらとんでもない量のゴミが来る
ことも目に見えていて、ちょっと怖いですね。
気候変動と言われてもピンとこない人のほ
うが圧倒的に多いです。自然の中で遊ぶこと
によつて得られるものつてものすごく多いと
思うので、たくさん的人に自然の中で遊んで
感じてほしいですよね。

多いほどゴミの数は多い
でも、今年はゴミがめちゃめちゃ少なかつ
たんですよ。雨がとにかく少なかつたつい
うのが原因です。台風も少なかつたから水温
も上がり続けるし、海の透明度もすごく悪く
なりました。

島々を抜けていくと島の向こうにまた違う島があつたり、有明海のど真ん中に浮かぶ湯島や島原半島の全景がバーンと見えたり、と



ツアーで上陸するシェルアイランドは天草の楽園。写真提供／unplugged

歩いて出ていけるようなきれいなリーフがあるけれど、逆にいえばダイナミックさがない。天草は隆起してきた地形なので、海の中でもダイナミックなんですよ。大きな柱のような岩が海の中に聳えている岩の迷路のような中をシユノーケリングしたりできるのが、天草西海岸ならではの魅力なんです。牛深で出会った人たちがフォローしてくれて、牛深のフィールドと施設を利用させていただくようになりますよ。そんなオシャレな貝と

A wide-angle photograph showing several people in colorful kayaks (blue, red, yellow) on a large body of water. In the background, there are green hills and mountains under a blue sky with white clouds. The kayakers are wearing life jackets and hats. The water is slightly choppy.

七
九

アーデ、1からチャレンジしてみよう」と思つて、上天草に移り住むことにしたんです。シエルアイランドがなかつたらやつてなかつたかもしれないですね。

それからじっくり、ここをもうほんと回りまくりましたね。季節ごとの潮の時間を調べたり、危険な箇所を地図上にチェックしたり、安全確保のためにみっちりくまなく調べに調べて、1年以上かけたんじやないですかね。

松島をフリールドにして本格的にやりまして11年目です。2年間は牛深とことどちらでもやれるような体制を作りながらやつてま



ツアーで上陸するシェルアイランドは天草の楽園。写真提供／unplugged

するわけですよ。やっぱり遠い、ならば移り住もうと思つたんですね。

アーデ、1からチャレンジしてみよう」と思つて、上天草に移り住むことにしたんです。シェ

30